

支部創立50周年を祝って

玉野 和 保*

* 広島工業大学 広島県広島市佐伯区三宅 2-1-1

* Hiroshima Institute of Technology, 2-1-1, Miyake, Saiki-ku, Hiroshima, Japan

* E-mail: k.tamano.mc@it-hiroshima.ac.jp

JL 0011/14/5311-1046 ©2014 SICE

2013年に迎えた支部創立50周年を、本年5月30日(金)、会員約40名の参加によって岡山コンベンションセンターで祝いました。式典では最初に行方委員長を務めた筆者が、式典までの経過、支部の地域産業への貢献、これからの支部活動への期待などに触れ挨拶しました。つづいて来賓の本学会仲田隆一会長より祝辞をいただきました。仲田会長から、本支部が2番目の地方支部として設立されたことと、本学会が一貫して基盤技術から課題解決まで分野横断型の事業を展開してきたことが述べられました。中でもライフエンジニアリング部門は、わが国が高度な福祉国家に向うために期待されている事業であると強調されました。また今後、国内外の諸学会とも連携して世界の課題にも積極的に取り組むことへの必要性が述べられ、最後に本支部のこれからの活動へ励ましをいただきました。

式典では、本支部活動に貢献された協賛会員のJFEスチール(株)、三菱重工(株)、三菱化学(株)水島事業所、(株)トクヤマ徳山製造所、マツダ(株)の5社に優秀功労賞を、また中国電力(株)、パブコック日立(株)、(株)日本製鋼所、三井造船(株)玉野事業所、出光興産(株)トクヤマ事業所の5社に功労賞を贈呈し表彰しました。

その後、岡山大学大学院環境生命科学研究科の西垣誠教授によって「自然災害と計測」の演題でご講演をいただきました。西垣先生から、さまざまな自然災害の中で大規模な災害を引き起こす地震や土砂災害予知へセンサーが不可欠であると述べられ、地盤工学における計測の重要性について解説されました。なかでも地盤の深さ方向の水分量変化分布や、斜面内の風化層の三次元分布の把握は災害の予知に非常に有益であると言われました。さらに何千年も地

中から計測値が得られるセンサーを開発してもらえないかとも呼びかけられました。途中、計測へのニーズは多くあるが、「愛」、「友情」、「信頼」は測ってはならない対象で、仮にこれらが測れても、愛情の持続性までは計測できないだろうとジョークを交えられました。最後に自然災害の予知のために計測工学と防災工学の分野の研究者・技術者が交流するサロンが必要であると訴えられ締めくくられました。

式典後、隣接の会場に設けた祝賀会で、これまでの20年間の歴代支部長から支部運営での苦労話を伺いながら盃を酌み交わしました。最後に次年度支部運営を担当予定の岡山理科大学のクレモフ・バレリー教授から挨拶をいただき、閉会しました。

この行事の企画、準備、実行に当たっては、支部運営に関わられた多くの方々に多大なるご尽力をいただきました。まず記念誌について、この20年間の支部長から随想と会員から提言をいただきました。紙面を借りて感謝申し上げます。また支部活動の記録は、山口大学 中島翔太先生、広島工業大学 土井章充先生に業務多忙中、多大に時間を割いていただきました。有難うございました。記念誌には、節目に当たる第1回と10回、20回の学術講演会の予稿集や風景写真を掲載し、支部学術講演会を追想しました。この写真収録には、広島工業大学の深山幸穂先生、姜兆慧先生、岡山大学の高橋智先生方にお世話になりました。式典準備には、2013年度支部長、山口大学の田中幹也先生、2014年度支部長、福山大学の三谷康夫先生に大変ご苦労いただきました。とくに福山大学の伍賀正典先生には、準備から会場手配、当日の会場運営まで多くの業務を担当いただきました。心より厚く御礼申し上げます。

本支部は会員数99名で発足し、1997年の507名をピークに、50周年を迎えた昨年度、正会員325名、学生会員38名、永年会員2名、賛助会員14社と変遷してまいりました。第20回支部学術講演会でご講演いただいた曾禰元会長からも「これからは人を中心にした計測技術が求められるようになる」と御提言いただきました。少子高齢化社会では人に優しい技術が必要になります。本会がこれらの要望に応えることで一層発展すると強く信じています。支部の今後ますますの発展を心より祈念しています。

(2014年8月18日受付)

